

SSC
埼玉県障害者社会参加推進
せなだより
 令和2年12月30日 127号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 頒行 価 一部100円(会費に含まれます)
 発行 日 10日・20日・30日

埼玉県ケアラー支援計画が策定されます！

NPO法人埼玉県障害者協議会 代表理事 田中 一たなか はじめ

はじめに「ケアラーとは」

埼玉県議会議員による全国初の「ケアラー支援に関する条例」が令和2年3月31日公布・施行されました。ケアラーの定義とは、「高齢、身体上、精神上的の障害又は疾病等により援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する者。またヤングケアラーとは、18歳未満の者と定義しています。筆者は、ケアラー支援に関する県の有識者会議に障害者団体から委員に参加しています。センターだよりの紙面で、県が実施したケアラーの調査結果(主に高2のヤングケアラー、障害者団体のケアラーの状況)について報告します。このケアラー支援計画は、調査結果と有識者会議の議論を踏まえ令和2年12月中に計画骨子と素案をまとめ、令和3年1月に県民コメント2月に県議会に上程されて、年度内に策定されます。



出典イラスト：一般社団法人日本ケアラー連盟

が8割を超えています。ケアの内容は、食事の用意や洗濯などの「家の中の家事」(1143人)が一番多い。およそ5人に1人は、入浴・トイレ介助などの「身の回りケア」(405人)も行っていた。

学校生活への影響は、「影響なし」が825人と最も多かったが、有識者会議委員の高等学校長協会の会長は「自分を持ち上げて無理をしてしまう年ごろなので何も支援をしなくていいと考えるべきではない」と指摘している。「孤独を感じる」(376人)、「ストレスを感じている」(342人)、「勉強時間が十分に取れない」(200人)など日常生活に支障が出ていることがうかがわれます。

① ヤングケアラー
 県内高2の4%
 25人に1人が家族を介護

県地域包括ケア課が実施した調査は7月から9月に県内の国公立、私立に通うすべての高校2年生5万5772人を対象に実施。4万8261人から回答。都道府県に

よる大規模な実態調査は全国初です。ヤングケアラーは1969人(4.1%)。ケアを始めた時期は「中学生」が688人と一番多く、次が「小学4から6年」の395人。ケアの頻度は「毎日」が最多「週2・3日」が441人など、週1回以上ケアをしている生徒の割合

計画では、県立学校や市町村立学校の関係者や福祉職員向けの合同研修に21年から3年間で計1千

人受講させ、ヤングケアラーと疑われる子供の発見や、教育と福祉が連携した支援体制の構築を図るとしています。

ヤングケアラーの自由意見として「持病のある親がいてコロナに絶対感染できないので、学校を休むことが多く、授業についていけない」「自分の将来が心配。就職や結婚など、どう行動すべきか全くわからない」「中2からヤングケアラーだった。最初はストレスを感じることが多く、倒れたこともあったが、家族でいられる時間が増え、今は幸せ」などの悩み、意見がありました。

② 障害者団体（県内21団体）の調査から見るケアラーの置かれている状況

① ケアラーの悩み

悩みを見ると、「自身の心身の健康」が79・2%で最も高く、次いで「老障介護の問題」が70・8%、「将来への見通しが持てない」が66・7%の順で多かった。

主な自由意見を見ると「障害の

ある子どもと高齢の親の介護を、定年を迎えた夫ともに行っている。普段は自身の仕事と介護に大きく時間を取られ、自身の気が休まる時が少ない。「障害を持っていて息子（60歳）のことが気になっている。自身も衰えがあり、時々入院する。妻は週に2回程度ヘルパーが入る。息子にも重度訪問の介護者が入ったりするが、本人が嫌がりうまく使えていない。こんな状況だが、いろいろな人に関わってもらって何十年もつづけている。」

② ケアラーが必要と考える支援

必要と考える支援を見ると、「親が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」が75・0%と最も高く、次いで「災害緊急時サービス」が66・7%、「気軽に情報交換できる環境の紹介・提供」、「社会的なケアラー支援の理解」、「専門職や行政職員のケアラー支援への理解」がともに58・3%であった。

主な自由意見を見ると「埼玉県においては、ケアをしている相手

の相談支援の体制が縦割りの仕組みのため、ケアラー支援が進んでいないように思う。若年性認知症の方や、脳卒中の後遺症で高次脳機能障害になった方など、介護保険サービスの利用が優先される「ケアしている相手」への医療、保健、介護、福祉の連携した支援体制を講じていただきたい。」

③ 新型コロナウイルスの影響で困ったこと（自由意見）

・知的障害者のケアラーは、ほとんどが家族であるので、どちらかが感染した場合、どう対処すればよいのかという不安がある。

・ケアすると相手と二人暮らしの場合、ケアラーがコロナに感染してしまった場合のことが心配で必要以上にコロナを恐れてしまう状況がある。中には必要以上に警戒して外出を禁止する人、寝ている時を見計らって買い物をする人がいる。

④ ケアラー支援や民間支援団体に対する支援の要望（自由意見）

・ケアを受ける人たちへの支援は当然のことながら、「ケアラー」への支援というのはまだまだ認知されていらないと感じる。アンケートが送付されて初めて条例の存在や支援計画策定の動きがあることを知った。障害のある人を育てている家族も含まれることに驚くとともに、「親なのだから当たり前」ではなく、もつと声をあげてほしいんだと気づかされた。広く啓発を行ってほしい。

終わりに

この計画の3か年の目標である

- ① ケアラーを支えるための啓発・広報の推進
 - ② 行政におけるケアラー支援体制の構築
 - ③ 地域におけるケアラー支援体制の構築
 - ④ ケアラーを支える人材の育成
 - ⑤ ヤングケアラー支援体制の構築・強化
- の五つの目標の実現を図るため、不断の努力と英知が求められています。



第41回

コロナ禍での

埼玉障害者まつり

障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

事務局長

若山 わかやま

孝之 たかゆき

4月から、「いつものような障害者まつりはできない」と考えていました。中止せざるを得ないかなとも思っていました。また、「今年は中止だね」という声も聞こえてきました。日本中の祭りが中止になってきました。

あまり根拠はありませんでしたが、「映像を使ったまつりなど何ができるか考えていきたい」と皆さんには答えていました。というのも、私の知識では、想像はできても、到底、そこへの道筋は歩みだせるものではありませんでした。

など、多くの声を聞きたびに、背中を押されるように、だめだったら中止にしようと、あまり肩ひじを張らずに準備に取り掛かりました。県の障害者福祉推進課にも、2回ほど足を運び、機材なども補助金の対象としていかなど話をしました。



その中で、「人々のつながり無くなり、孤立している状況が生まれている」これを何とかしたいという強い思いも片方にはありました。

「イベントがなくなり、作業所できつった製品が売れない。」

「家から出られず、生活リズムが狂ってしまった。」

「うつらない、うつさないために、消毒や健康管理、神経がくたくた。」

「PCR検査が受けられず、不安の中で利用者と接している。」

完全申し込み制、

模擬店はしない。

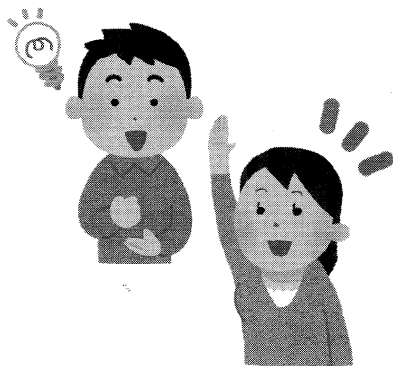
7月に予定した実行委員会は流れました。頭の中を整理しながら、まわりの人の声も聞きながら、

少しずつ形にしてきました。テーマも決めました。企画書も作りしました。

テーマは、まさに

困難をかかえている人々と手をつなごう。コロナ禍の中の障害者、家族とともに。

にしました。情報過多や後手、後手の施策の中で、翻弄され、集まることができずにいます。今、本当に困難になっている中で、困難な時だからこそ、オンラインを活用し、知恵を集め、できる限りのアピールをしていきたい、情報交換や我々の願いを要望として作り上げていくことが求められていると思えました。



やっと、9月6日に実行委員会を開くことができました。考えたら、私たちの周りには、知識のある人たちは多くいたのです。始めてみて分かったことは、専門的な知識がなく、オンラインの説明も全部を理解すること難しいというところ、また、それぞれの知識に差があること、その中で、準備するみんなに共通理解を作ることなんとも困難である。

YouTubeは、専門家に。

我ら事務局の知識を有する集団が

ズームを担当

今までかかわってきたメンバーは

庶務

当日、いつもと変わらず、浦和見沼太鼓が開会を告げる演奏をしてくれました。初めての参加の夏野菜の太鼓、厳しい営

業が続く、ズームで、川越から「いーもんず」が届けられ、「ともしび」が新宿からやってきました。ドラムサークル「チョコ Mint」の楽しいステージといつもの雰囲気ホールに響きました。



シンポジウムは、会場から、5人、ズームで4人が、コロナの中で、外出の機会が減り、精神的にも肉体的にもしんどいも



のがあり、現在も続いていると発言がありました。最後に、立教大学の平野氏は、「弱い立場の人こそ、今、声を出すことは、とても重要」と述べました。

美術展、作業所応援企画は、呼びかけの遅さもあり、参加が少なかったのですが、何ができるのか知ることができました。ステイホーム疲れを取ろうと、マッサージでも客が途絶えることな

く施術を受けていました。会場には、一般参加者、出演者、要員で、当日の参加者は、174人でした。来賓で来た県障害者福祉推進課の課長の村瀬さんは、あいさつで、できたことの意義を強調されていました。第41回障害者まつりをつなぎ合った力で行うことができました。多くの課題や反省点があったまつりでもありました。しかし、それは、次回への展望のある教訓となるものではないかと感じています。

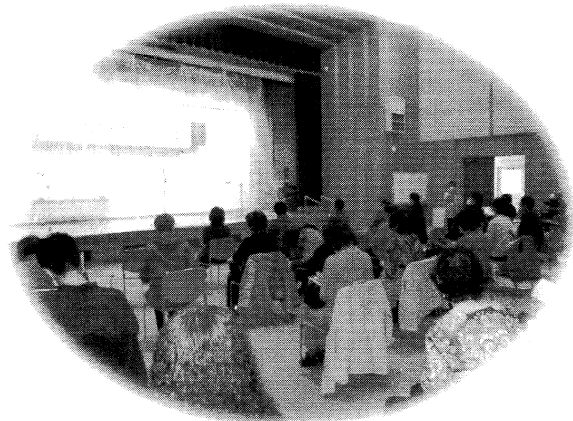
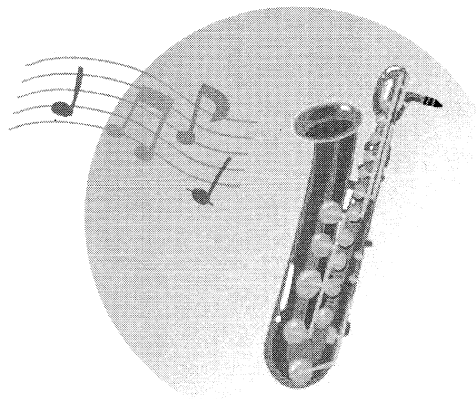


秋の文化活動

一般社団法人埼玉県障害難病団体協議会

まつまる
松丸 和子
かずこ

素晴らしい秋晴れの11月22日に秋の文化祭として、埼玉県障害難病団体協議会と日本リウマチ友の会埼玉支部共催で障害者センターのホールにて「サックス&ちんどん太鼓」が開催されました。



今年にはコロナ禍の中で参加者の集まりを心配しましたが、舞台上にカーテンのようにパーティションを用意して万全の準備を致しました。30名を越す参加者でした。

例年ですと秋の旅行を計画するところですが、大事を取ってセンターで行いました。

このコロナ自粛の中ですので皆さんに少しでも明るく癒されてもらえたらいいなと考えまして、この企画となりました。

出演者の一丁目一番地さんは各地でご活躍のグループです。今回は3名の方が来て下さいました。

懐かしいちんどん屋のいでたちで登場し、サックスでは「五番街のマリー」を演奏して下さって感動でした。私達の知っている曲を沢山演奏してくれて、マスクの中で自分だけで小さく歌うことが出来ました。とっても嬉しかったです。あつという間の楽しい午後のひと時でした。有難うございました。来年は、皆さんで楽しく旅行も出来るといいなと感じました。



【加盟団体活動紹介 第十九回】

一般社団法人 埼玉県身障者問題をすすめる会

「重い障害を持つ人たちが安心して暮らすことができるように」を運動の原点として、障害者の生活援護施設・居宅介護支援事業所の運営をはじめ、広く障害者の実生活に即した福祉施策の増進と、障害者の生活基盤の確立と向上をはかることを目的としています。

発行会報誌

機関紙「あゆみ」

発行月 毎月

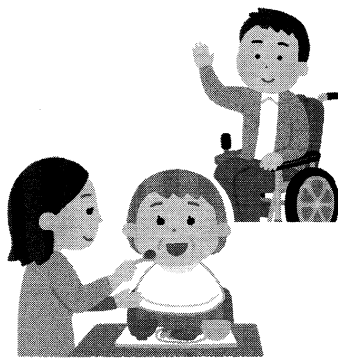
ホームページ

無し

目的

「重い障害を持つ人たちが安心して暮らすことができるように」を運動の原点として活動を初めて、障害者の生活援護施設として地域活動支援センター「はなどけい」を・居宅介護支援事業所として「身障者ヘルパーステーション表・サポートセンター表」を立ち上げました。そして、在宅障害者の地域生活をより快適なものに出来るよう、地域や行政等との結びつ

きを強め、安心して暮らせる社会をめざし、更に力強く活動をすすめていきます。



活動紹介

「重い障害を持つ人たちが安心して暮らすことができるように」を運動の原点として活動を初めて、障害者の生活援護施設として平成13年に心身障害者地域デイケア施設「はなどけい」が活動開始、平成24年に制度改正により地域活動支援センターに業態変更し現在に至る。また、居宅介護支援事業所として平成15年に居宅介護サービスを提供する「身障者ヘルパー

ステーション表」が活動開始。相談支援事業として平成22年に「サポートセンター表」が活動開始をしてそれぞれが地域の在宅障害者の生活を支えております。そして、在宅障害者の地域生活をより快適なものに出来るよう、地域や行政等との結びつきを強め、安心して暮らせる社会をめざし、更に力強く活動をすすめていきます。

設立年

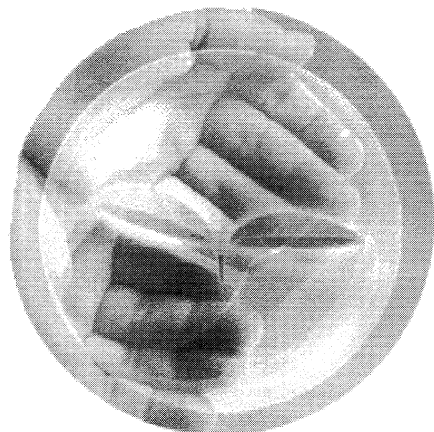
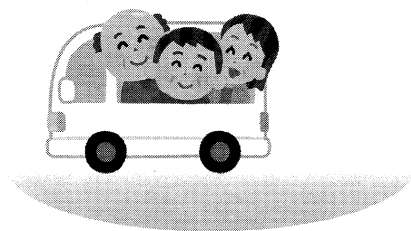
昭和41年

会員数

64名

会員対象

特にありません



【加盟団体活動紹介 第二十回】

一般社団法人 埼玉県聴覚障害者協会

「聞こえなくても、あたりまえの社会を」70年間たった今も変わらない信念を持ち、会員一人一人の声を大切に活動しています。

ホームページ

<http://sai-deaf.org/>

目的

設立年
昭和27年設立。

設立年

907名（2020年時点）

会員対象

埼玉県内に在住する聴覚障害者

発行「会報誌

埼玉ろう者新聞

毎月15日発行

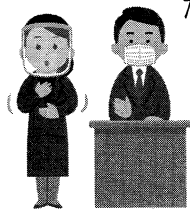
2020年12月時点530号

ろう者が手話言語で生活することが当たり前前の姿となりつつあります。

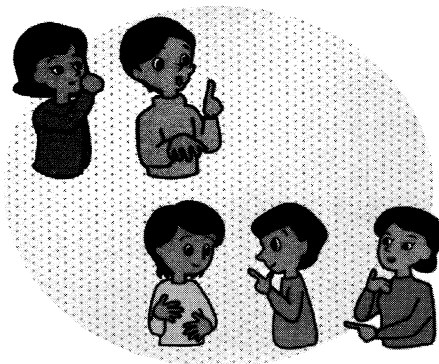
しかし、今もなお見えない差別が残っています。今後手話言語がきっかけとなり「障害者」という言葉が無い、あたりまえの社会にむけて活動していきます。

活動紹介

当会は若い世代から会員になっている人が多く、幅広い世代の悩みや怒りの声が出ています。その声を運動に変え、さまざまな機関と話し合いをしています。特に2020年では、新型コロナウイルス感染症が流行し始めるとともに県の会見が増えてくることを想定して、会見における手話言語による情報発信を要望しました。



その結果、手話言語による会見が行われるようになり、聞こえない人も、聞こえる人と同等に新型コロナウイルスに関する情報を獲得できるようになりました。



今年度は、当会の上部団体である全日本ろうあ連盟とともに、手話言語法と情報・コミュニケーションの制訂を目指すとともに、「連盟創立70周年記念映画「咲む（えむ）」の上映活動を行い、ろう者また手話言語への理解啓発と普及に取り組んでいます。

現在は、手話が言語であり、

「聞こえないこと」の理解を広める取り組みを行ってきました。

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

言語を確立するための埼玉県手

話が聞ける人に広め、手話

が大切に守ってきた「手話言

語」を聞き取る人に広め、手話

言語を確立するための埼玉県手

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

話言語条例の成立等、ろう者の

社会参加を促進させるよう「聞

第 39 回県民福祉講座が開催されました

実践的なセルフスキンケア、誰にでもできるフットケアの仕方 ～ 難病に負けず生き生きと美しく！ ～

赤い羽根共同募金助成事業 第 39 回県民福祉講座「難病に負けず生き生きと美しく！」が 10 月 18 日（日）、埼玉県障害者交流センターホールを会場として開催されました。

埼玉県障害難病団体協議会主催、埼玉県膠原病友の会・日本リウマチ友の会埼玉支部が共催となって、当日はお 2 人の講師が招かれ、2 部構成で講座が行われました。

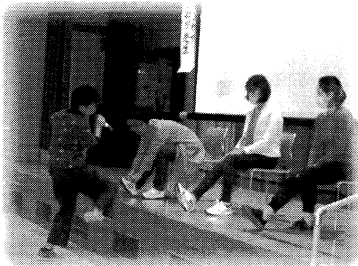
第 1 部は「足の不調を未然にふせいで元気にあるこう」の講義として、リウマチケア登録看護師で日本フットウェア技術協会フットケアマネージャー 2 級資格を取得されております横山里子先生。

第 2 部では「実践的なセルフスキンケア」の講義をされました、ご自身も SLE を発症し一時は寝たきりになり、長きにわたる闘病とリハビリを経験されたのち、一般社団法人日本臨床化粧品療法士協会代表理事を務めております河村しおり先生。お 2 人の先生

には、お話しだけではなく、在宅時や空いた時間に手軽にできる、お勧めフットケアや、日頃のお肌のお手入れなどを参加者を交え実践していただき、大変勉強になる講習会でした。

NPO 法人埼玉県障害者協議会

太田 泰子



<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口 2,000 円 です。

入会をご希望の方は、右記の口座へお振込み下さい。

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



<郵便振替>

【口座番号】

00130-9-673233

【口座名称】

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人
さいなまげんしょうがいしやきょうざいかい
埼玉県障害者協議会

編集後記

思い返せば新型コロナウイルス感染症に振り回された 1 年でしたが、収束する兆しもなく新しい年を迎えようとしています。皆さんは年の初めをどのように過ごされますか？感染拡大防止のため、仕事や会議に留まらず、冠婚葬祭までもがオンラインで行なわれる時代になりましたが、初詣や参拝もオンラインで、お賽銭もキャッシュレスで、ということが常識化しそうな流れです。ご利益があるのか疑ってしまう私はちょっと古い人間なのかもしれませんね。いずれにせよ、来る新しい年が皆さまにとって良き 1 年となりますよう、お祈り申し上げます。今年もお世話になりました！（塩原）